

武蔵村山市のまちづくりに関するアンケート調査 概要報告書

(1) 目的

「武蔵村山市まちづくり基本方針」の改定に向けた検討を行うにあたり、今後のまちづくりについての市民の皆様の考えを的確にとらえるため実施したものです。

(2) 調査項目

- フェイスシート（性別、年齢、居住歴、居住地、住居の形態、職業）
- 市のこれまでのまちづくりと将来について
- お住まいの地域の様子や今後のまちづくりについて
- 今後のまちづくりの方針について
- これからのまちづくりの進め方について

(3) 調査方法

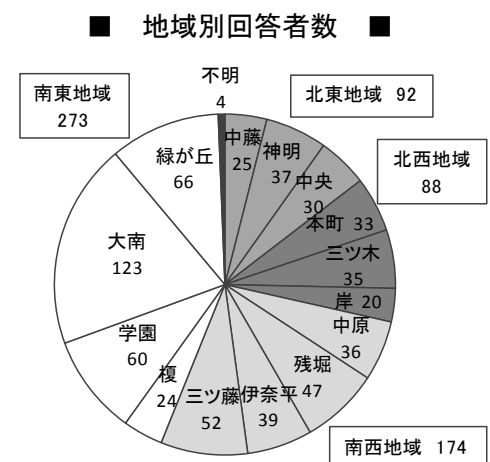
- 調査地域：武蔵村山市全域
- 調査対象：市内に在住する満20歳以上の男女 2,000人
- 抽出方法：単純無作為抽出（平成23年8月1日現在住民基本台帳）
- 調査方法：郵送配布・回収による郵送調査法
- 調査期間：平成23年9月5日～平成23年9月26日（平成23年10月6日到着分までを集計）

(4) 配布・回収状況

- 配布数：2,000件
- 回収数：631件
- 有効回収数：631件
- 有効回収率：31.6%

(5) 回答者の基本属性

- 回収数(631件)のうち、277件(43.9%)が男性、349件(55.3%)が女性で、不明が5件でした¹。
- 年齢では、60歳代が148件(23.5%)で最も多く、70歳以上125件(19.8%)、30歳代114件(18.1%)、40歳代97件(15.4%)、50歳代88件(13.9%)、20歳代53件(8.4%)と続きます。
- 「武蔵村山市まちづくり基本方針」で用いている地域区分に回答者の居住地を当てはめると、北東地域（中藤、神明、中央）92件、南東地域（榎、学園、大南、緑が丘）273件、南西地域（中原、残堀、伊奈平、三ツ藤）174件、北西地域（本町、三ツ木、岸）88件となり、この4地域を基本に地域別集計を行いました²。



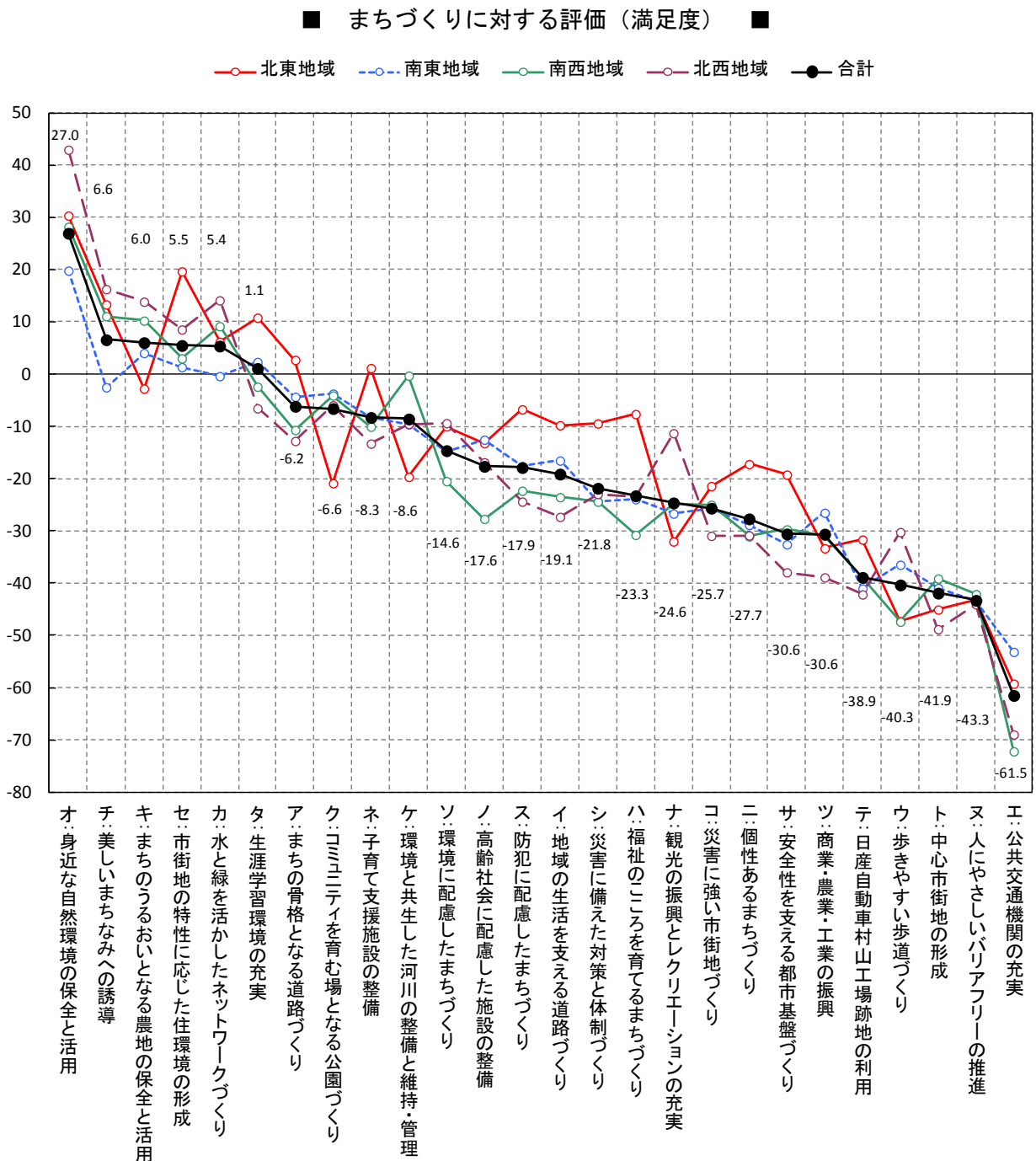
¹ 集計結果におけるパーセント表示は、全て小数点第2位を四捨五入しており、表示の比率の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問では、比率の合計が100%を超える場合があります。

² このほか年齢別の分析も行いましたが、この概要報告書には、地域別分析結果の概要のみを掲載しています。

(6) 集計結果の概要

① まちづくりに対する評価（満足度）³

- 「身近な自然環境の保全と活用」を筆頭に、「美しいまちなみへの誘導」「まちのうるおいとなる農地の保全と活用」「市街地の特性に応じた住環境の形成」「水と緑を活かしたネットワークづくり」など、満足度が高い項目は『うるおいあるまちづくり』や『やすらぎ・住みよさのまちづくり』⁴に関連する分野が中心です。
- 満足度が低い項目は、「公共交通機関の充実」「人にやさしいバリアフリーの推進」「中心市街地の形成」「歩きやすい歩道づくり」「日産自動車村山工場跡地の利用」「商業・農業・工業の振興」「安全性を支える都市基盤づくり」など、『便利で快適なまち・あしづくり』や『にぎわい・活力のまちづくり』に関連する分野が多くなっています。



※各項目に対する回答結果を「満足：+100」「やや満足：+50」「やや不満：-50」「不満：-100」として指標化。数字は合計のポイント数

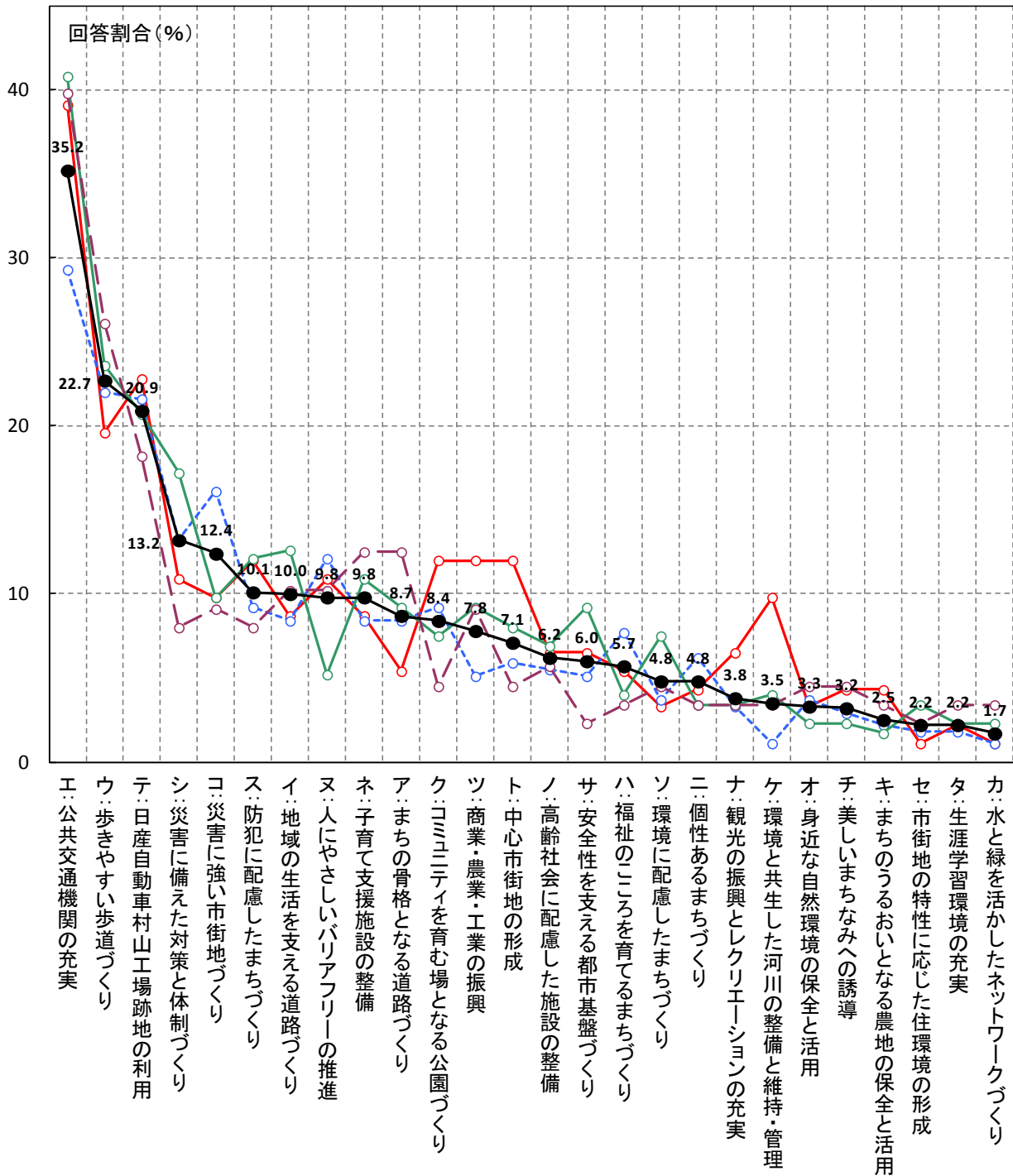
³ 各コメントは単純集計に係るもので、地域別集計に係るコメントは8ページにまとめています（以下同様）。
⁴ 『 』内は、「武蔵村山市まちづくり基本方針」におけるまちづくりの分野を示しています（以下同様）。

② まちづくりにおける取り組みの重要性（重要度）

○ ①で満足度が低かった「公共交通機関の充実」「歩きやすい歩道づくり」「日産自動車村山工場跡地の利用」は今後のまちづくりにおける重要な取り組みとしても関心が高く、その他、「災害に備えた対策と体制づくり」「災害に強い市街地づくり」「防犯に配慮したまちづくり」など、『安全・安心のまちづくり』関連分野の取り組みが重要だと考えられています。

■ まちづくりにおける取り組みの重要性（重要度） ■

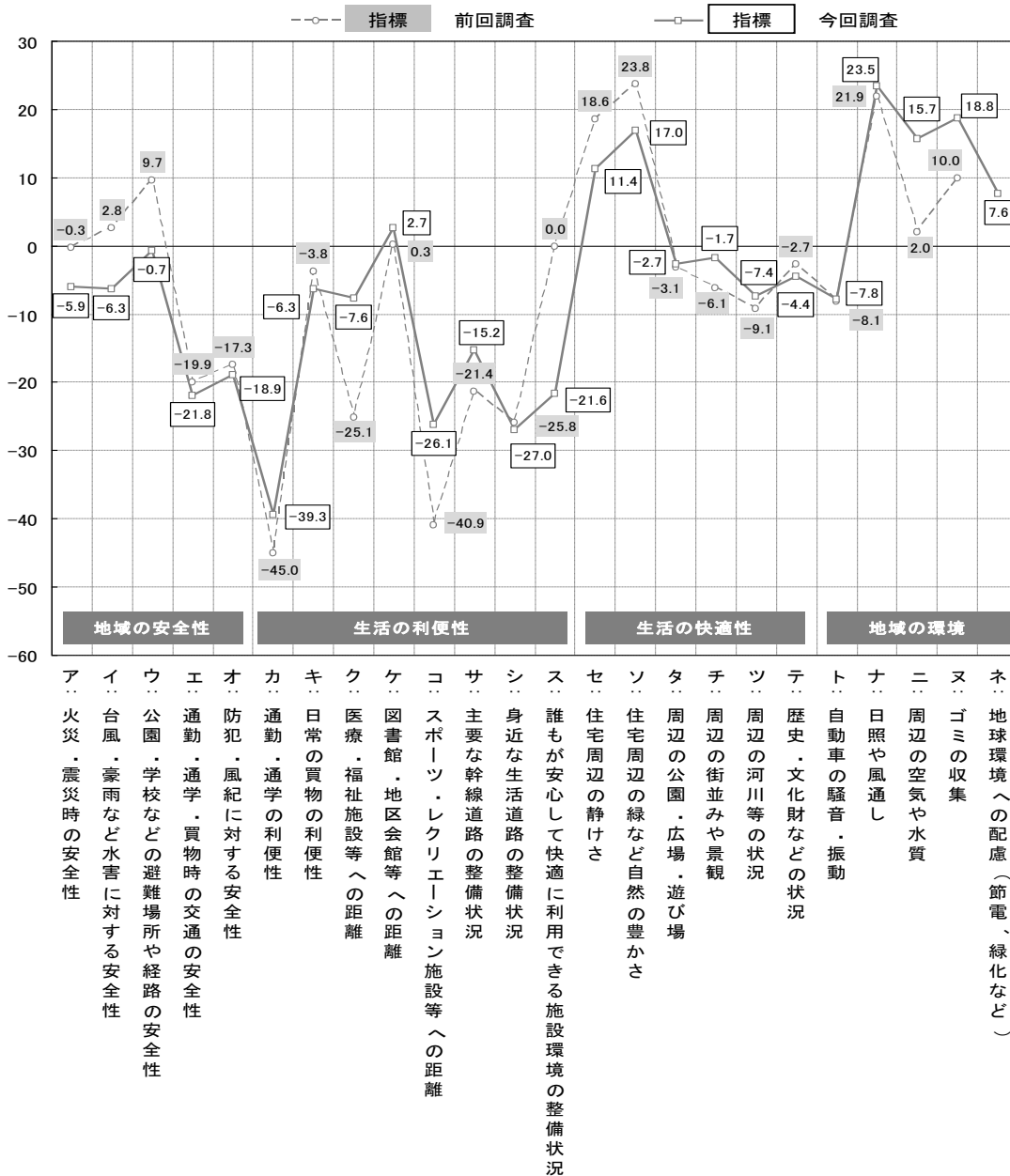
—○— 北東地域 -○- 南東地域 ○— 南西地域 ○— 北西地域 ●— 合計



③ お住まいの地域の様子

- 「住宅周辺の静けさ」「住宅周辺の緑など自然の豊かさ」といった「**生活の快適性**」に関わる項目や、「日照や風通し」「周辺の空気や水質」「ゴミの収集」など「**地域の環境**」に関わる項目で**満足・やや満足の割合が高い**という結果でした。
- 「通勤・通学の利便性」「通勤・通学・買物時の交通の安全性」「スポーツ・レクリエーション施設等への距離」「身近な生活道路の整備状況」など「**生活の利便性**」で**不満・やや不満の割合が高くな**っています。
- これを**前回調査(平成13年8月調査)**と比較すると、**安全性に関する満足度の低下が目立ち**、特に「台風・豪雨など水害に対する安全性」「公園・学校などの避難場所や経路の安全性」の満足度が大きく低下しています。**利便性に関する満足度は全般に上昇**しており、**快適性に関しては評価が低下した項目もありますが、その満足度はプラス側の評価を維持**しています。また、**環境に関する満足度はすべての項目で前回調査を上回**っています。

■ お住まいの地域の様子 ■



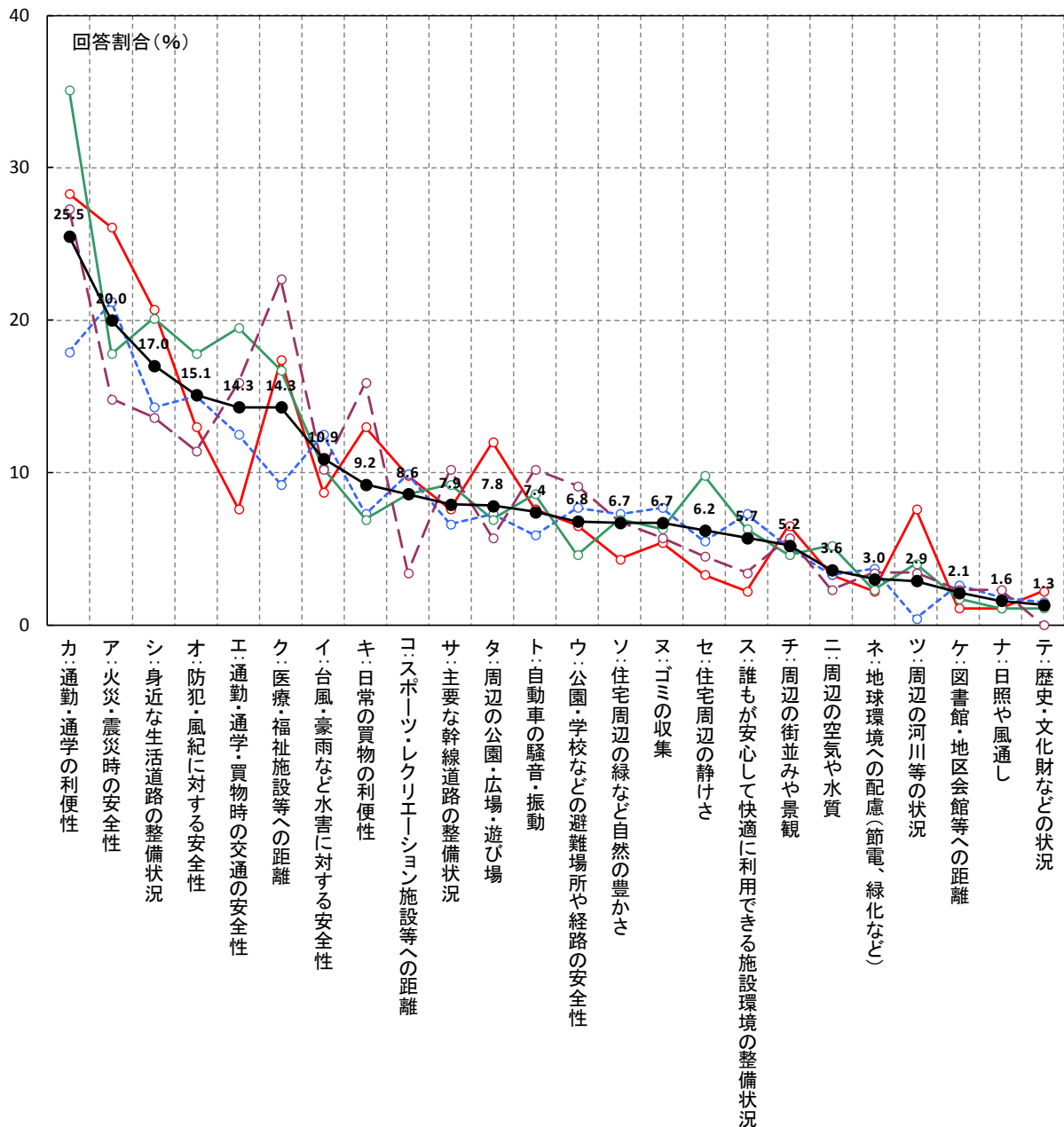
※各項目に対する回答結果を「満足：+100」「やや満足：+50」「普通：0」「やや不満：-50」「不満：-100」として指標化。数字は合計のポイント数

④ お住まいの地域で重要な取り組みと地域の将来像

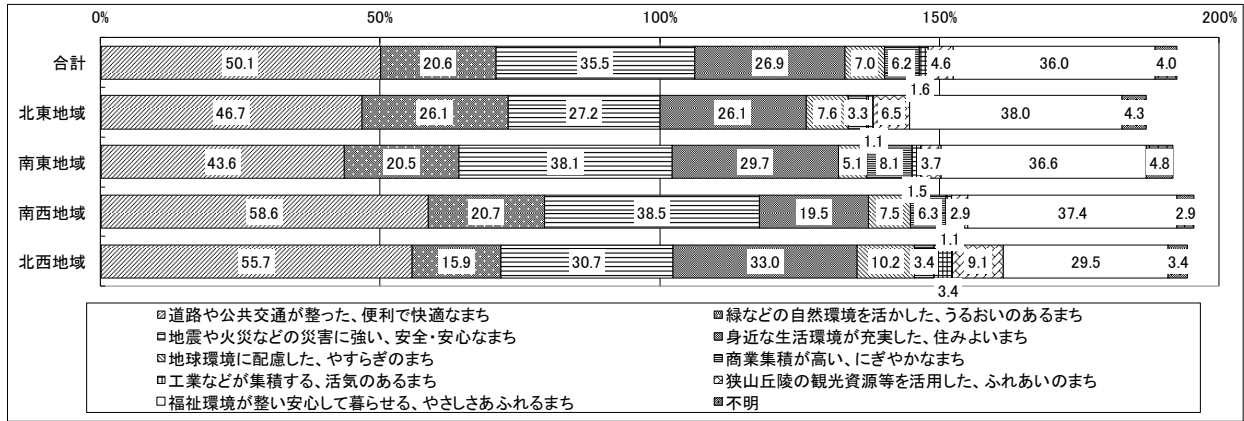
- 「通勤・通学の利便性」及び「身近な生活道路の整備状況」について、今後のまちづくりにおいて特に重要との回答が多くなっています。
- 「火災・震災時の安全性」について、特に重要との回答割合が高いほか、「防犯・風紀に対する安全性」「通勤・通学・買物時の交通の安全性」「医療・福祉施設等への距離」「台風・豪雨など水害に対する安全性」などで回答割合が高く、安全性分野の重要性が高いと考えられています。
- 地域の将来像としては、「道路や公共交通が整った、便利で快適なまち」との回答割合が最も高く、「地震や火災などの災害に強い、安全・安心なまち」及び「福祉環境が整い、安心して暮らせる、やさしさあふれるまち」がこれに続きます（参照グラフは次ページ）。

■ お住まいの地域で重要な取り組み ■

—○— 北東地域 -○- 南東地域 -○- 南西地域 -○- 北西地域 ●— 合計



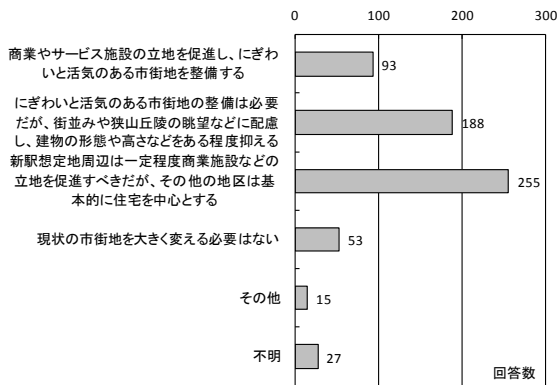
■ お住まいの地域の将来像 ■



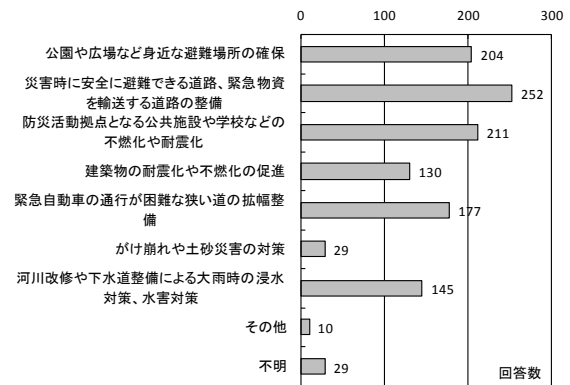
⑤ 今後のまちづくりの方針

- 新青梅街道の沿線まちづくりについては、「**新駅想定地周辺は一定程度商業施設などの立地を促進すべきだが、その他の地区は基本的に住宅**」との回答が最も多かった。
- 災害に強いまちづくりにおいては、「**災害時に安全に避難できる道路、緊急物資を輸送する道路の整備**」が重要という回答割合が最も高く、「**公園や広場など身近な避難場所の確保**」及び「**防災活動拠点となる公共施設や学校などの不燃化や耐震化**」を重要とする回答割合も高いです。
- 高齢者に配慮したまちづくりについては、「**特別養護老人ホームなどの老人福祉施設の整備**」及び「**公共交通機関の充実**」が重要とする回答割合が高くなっています。
- 武蔵村山市らしい美しい景観づくりについては、「**狭山丘陵などの自然景観の保全・整備**」が重要だとの意見が最も多くなっています。

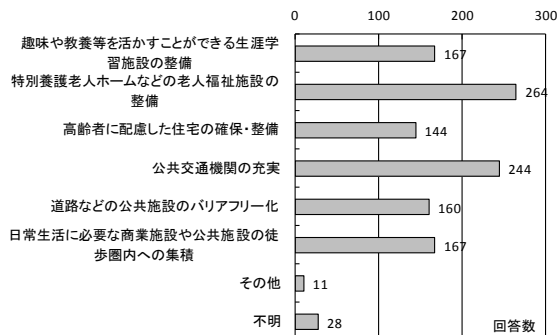
■ 新青梅街道沿道のまちづくり ■



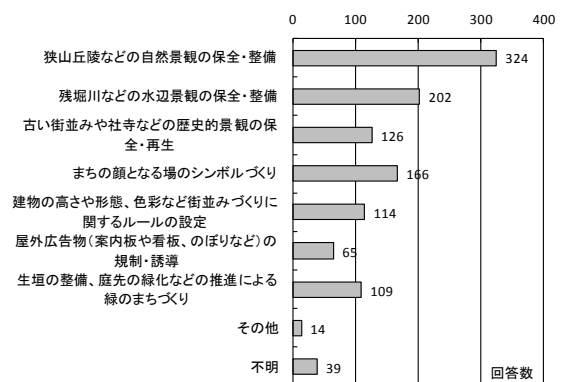
■ 災害に強いまちづくり ■



■ 高齢者に配慮したまちづくり ■



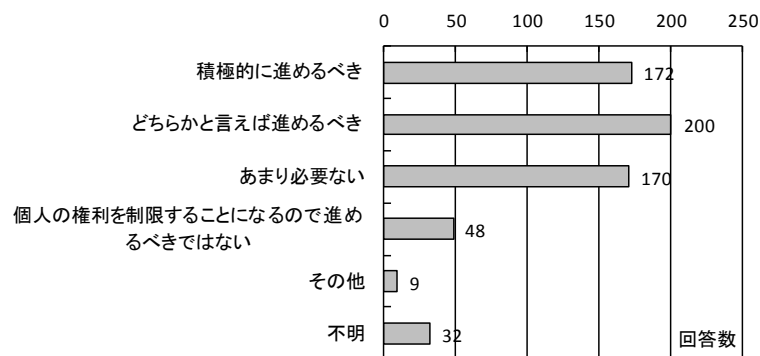
■ 武蔵村山市らしい美しい景観づくり ■



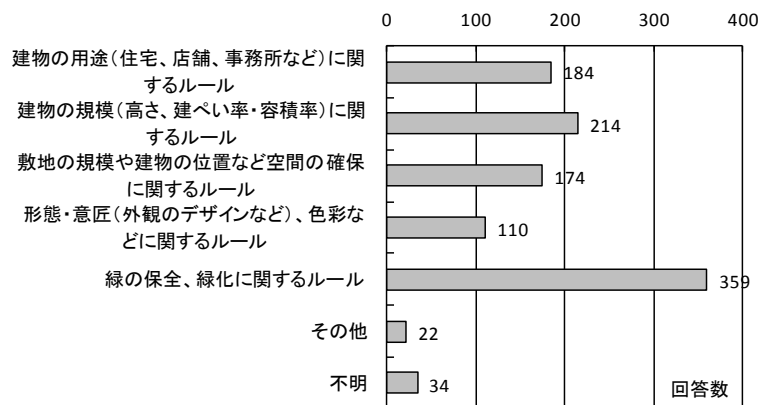
⑥ これからのまちづくりの進め方について

- 地域の特徴を活かした良好な市街地を形成するため、**建物に関する規制は「どちらかといえば進めるべき」との回答割合が最も多く、次いで「積極的に進めるべき」となっています。**ただし、「個人の権限を制限することになるので進めるべきではない」との回答は少なかったものの、「あまり必要ない」は「積極的に進めるべき」と概ね同じ回答数となっています。
- 地域独自のルールを特に定める場合、「**緑の保全、緑化に関するルール**」づくりが必要との回答割合が突出し、「建物の規模に関するルール」「建物の用途に関するルール」「敷地の規模や建物の位置など空間の確保に関するルール」がこれに続いています。
- **今後のまちづくりの進め方については、「地域の住民と行政が話し合いながら、協働によるまちづくりを進める」との回答割合が最も高く、「行政が主体となって検討し、その都度地域の住民の意見を聞きながらまちづくりを進める」**がこれに続き、その他の回答は少数となっています。

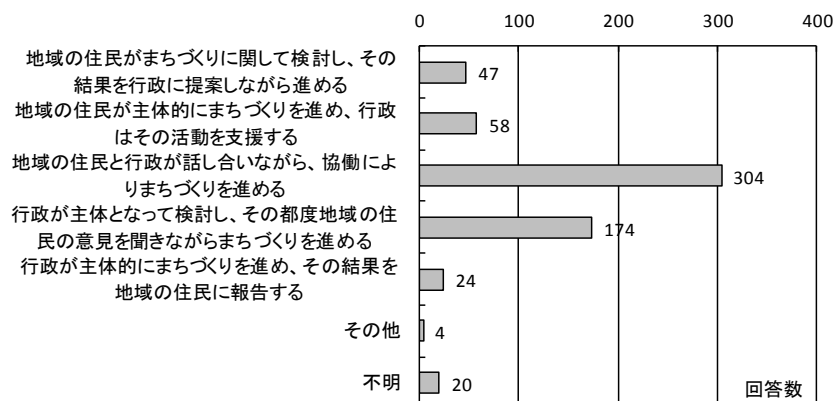
■ これからのまちづくりの進め方について ■



■ 地域独自のルールづくりについて ■



■ 今後のまちづくりの進め方 ■



⑦ 地域別傾向

- **北東地域** : これまでのまちづくりに対する評価や地域の現状に関する満足度は全般に高く、「**緑などの自然環境を活かした、うるおいのあるまち**」が地域の将来像に上げられるとともに、**武蔵村山市らしい美しい景観づくりを進める上で重要な点として、狭山丘陵などの自然景観の保全・整備を上げる回答が飛びぬけて高くなっています。公共交通機関の充実、公園・広場・遊び場の整備、火災・震災時の安全性確保が求められており、**がけ崩れや土砂災害の対策に関しては、割合は高くないものの他の地域に比較して対応を望む意見は多いです。また、商業・農業・工業の振興、中心市街地の形成、環境と共生した河川の整備を維持・管理などを今後のまちづくりにおいて重要な取り組みと考えている人の割合が他の地域に比較して高く、**まちの顔となる場のシンボルづくりを求める声も多くなっています。**
- **南東地域** : **住宅周辺の緑などの自然の豊かさをはじめ、地域の現状に関する満足度が全般に低く、災害に強い市街地づくりが必要と考えている人の割合が他の地域に比較して高くなっています。**
- **南西地域** : これまでのまちづくりに対する評価や地域の現状に関する満足度が全般に低く、「**道路や公共交通が整った、便利で快適なまち**」が地域の将来像に上げられています。**公共交通機関に対する評価は大きく市平均を下回り、公共交通機関の充実、通勤通学の利便性向上を求める声**が特に強い地域です。また、**災害に備えた対策と体制づくり、安全性を支える都市基盤づくりや通勤・通学・買物時の交通の安全性確保などを重要な取り組み**と考えている人の割合が他の地域に比較して高くなっています。一方で、**街並みや狭山丘陵の眺望などに配慮した建築物の規制も必要**とされ、**緑の保全、緑化に関するルールづくりや残堀川などの水辺景観の保全・整備**を多くの人が求めています。
- **北西地域** : これまでのまちづくりに関する評価は全般に低く、公共交通機関に対する評価が大きく市平均を下回っています。一方、『**うるおいあるまちづくり**』**関連分野の評価が高い**など、地域の現状に関する満足度は全般に高く、「**狭山丘陵の観光資源等を活用した、ふれあいのまち**」が地域の将来像に上げられています。また、「**道路や公共交通が整った、便利で快適なまち**」「**身近な生活環境が充実した、住みよいまち**」の回答割合も市平均と比較して高く、**公共交通機関の充実や道路、歩きやすい歩道づくりを進めることによる日常生活の利便性向上が強く求められている**といえます。災害に強いまちづくりにおいては、「**緊急自動車の通行が困難な狭い道の拡幅整備**」の回答割合が高くなっており、**都市基盤整備の必要性が高い**ことの反映とも考えられます。

※ クロス集計に係るグラフは前出グラフを参照ください。ただし、一部クロス集計に係るグラフの掲載を割愛しています。